

修士論文（要旨）
2010年1月

片仮名の運用から見る
日本語母語／非母語話者の言語意識

指導 佐々木倫子 教授

国際学研究科
言語教育専攻
208J4004
岡田英夫

目次

| | | |
|-------|-----------------------|----|
| 第1章 | 研究の背景 | 1 |
| 1.1 | 日本語の表記の揺れ | 1 |
| 1.2 | 研究の目的と研究の方法 | 2 |
| 1.3 | 先行研究 | 2 |
| 第2章 | 少年少女コミックの中の片仮名使用 | 4 |
| 2.1 | 少年少女コミックの中の片仮名語の種類 | 4 |
| 2.2 | 五つの分類に入らないものの内訳 | 5 |
| 第3章 | 片仮名表記使用に関するアンケート調査 | 7 |
| 3.1 | アンケートの内容と調査方法 | 7 |
| 3.2 | 調査結果1：日本語母語話者の場合 | 8 |
| 3.3 | 調査結果2：日本語非母語話者の場合 | 9 |
| 第4章 | 面接調査 | 12 |
| 4.1 | 調査方法 | 12 |
| 4.1.1 | 調査項目 | 12 |
| 4.1.2 | 調査対象者 | 12 |
| 4.2 | 調査結果1：日本語母語話者の言語意識 | 13 |
| 4.2.1 | 一般的な表記と異なると思われるものについて | 13 |
| 4.2.2 | 複数の表記を選んだものについて | 15 |
| 4.2.3 | 状況による書き分け | 16 |
| 4.2.4 | 書き分けのルールを習ったことがあるか | 19 |
| 4.2.5 | 書き分けに迷うこと | 19 |
| 4.2.6 | 気を付けていること／意識していること | 20 |
| 4.3 | 調査結果2：日本語非母語話者の言語意識 | 21 |
| 4.3.1 | 一般的な表記と異なると思われるものについて | 21 |
| 4.3.2 | 複数の表記を選んだものについて | 23 |
| 4.3.3 | 状況による書き分け | 24 |
| 4.3.4 | 書き分けのルールを習ったことがあるか | 28 |
| 4.3.5 | 書き分けに迷うこと | 29 |
| 4.3.6 | 気を付けていること／意識していること | 29 |
| 4.3.7 | その他 | 30 |
| 第5章 | まとめ | 32 |
| 5.1 | 結論 | 32 |
| 5.2 | 今後の課題と展望 | 33 |
| 参考文献 | | 34 |
| 資料 | | |

要旨

1. 研究の背景

日本語には、英語などの正書法に相当する厳密な標準表記が定められていない。英語であれば、一つの語を表記するのに複数のつづりが認められている場合はごく例外的である。これに対して、日本語の場合は、一つの語が、書く人により、また書かれる状況によって、さまざまに異なった表記で書き表される。日本語学習者を悩ませ、日本語母語話者ですら、迷うものを、非母語話者向けの出版物でどのように表記していくかの規範を探りたいと考えた。

ここでは特に、片仮名による表記に関連するものに絞って、日本語母語話者の言語意識を探り、そして非母語話者の意識との比較を行うこととした。一般に片仮名で表記されることの多い語の種類を分類して、それぞれの種類を代表する語を複数選んだ。そして、日本語母語話者と非母語話者に、それぞれの語を書く場合、平仮名・片仮名・漢字をどう使い分けるかを、アンケート形式で尋ねた。そして次に、そこに表れた結果を基にして、アンケート回答者から日本語母語話者5人、非母語話者5人の計10人を選び、面接調査を行って、書き分けについての意識を探った。

2. 調査概要

アンケートで調査する語の選定は、いくつかの先行文献による分類を参考とし、具体的には、日本語学習者に人気のある、日本の少年少女コミック9冊からその候補を選んだ。コミックを選んだ理由としては、まず第1に、日本語学習動機に占める漫画の重要性を挙げたい。そして、第2に、新聞や雑誌などでは、新聞社や出版社が一定の基準を持って表記の統一を図ろうとしている場合が多く見られるが、これに対して、少年少女コミックの中では、特に片仮名・平仮名・漢字の書き分けについては、作者の裁量に任される部分が多いように見受けられ、片仮名表現の使用の割合も多いと思われるためである。

アンケートでは、外来語、動植物名、擬音・擬態語、慣用化している片仮名表現、常用漢字表表外字・表外音訓を含む語ほかを、平仮名・片仮名・漢字表記の選択肢中から選ぶようにした。

面接調査では、文字種の表記の書き分けに関して、一般的と思われる基準から外れるものや、複数の表記を選んだものについて、その理由、また、状況による表記の使い分けの状況などを尋ねた。さらに、特に片仮名を使用する場合のルールを習ったことがあるかどうか、文字種の使い分けについて気を付けていることがあるかどうかなどを聞いた。

3. 調査結果

アンケート調査の結果では、語の分類の多くで、文字種の書き分けに関して、日本語母語話者／非母語話者の間に、違いが見られなかった。外来語は片仮名表記が圧倒的に多く、擬音語でも片仮名が多く、擬態語は片仮名と平仮名に割れる。そして、動植物名では漢字が多い。「特別な意味を含ませたもの」「代名詞」「助数詞」で漢字表記が多いことも一致した。また、常用漢字表表外字や表外音訓を含むものについても、語の分野により、漢字・平仮名・片仮名といろいろな分けられたが、この場合は、分野別の書き分けは日本語母語話

者／非母語話者の間で、必ずしも一致していない。一方、「慣用化している片仮名表現」「音が脱落したり挿入されたりするもの」「漢字のほかの読みとの差別化」などの分類では、日本語母語話者と非母語話者の結果に違いが見られたが、その違いに、一定の方向性は見いだせないようである。語の種類による片仮名使用については、日本語母語話者と非母語話者の間に、大きな違いは確認できなかった。

このように、アンケート調査では、片仮名の使用に関して、日本語母語話者と非母語話者の間で、大きな相違はないことが確認できた。しかし、面接調査で、片仮名の使用の意識面については、差が見られた。日本語母語話者は、例えば、動植物名について、身近なもの、擬人化、詩的、イメージなどの理由で片仮名書きするという発言があり、擬態語では、片仮名書きすることによって「視線の強さ」が強調される、あるいは「感じがこもっている感じがする」など、感覚的に片仮名表記を選ぶという発言が特徴的だった。一方、非母語話者は、いろいろな分類の語について、街中で見掛ける、看板や自分の身の周りで見ると、漫画で見掛ける、テレビのコマーシャルの影響、などの理由で片仮名書きを選ぶという発言が見られた。また、日本の若者の表記をまねたいとか、今の世代・流行に遅れたくないなどの理由でも、片仮名表記を選んでいる。つまり、日本語教育の場を離れた、実際の日本の生活の場で、表記については学び続けている姿がうかがえる。

4. 今後の課題など

今回の調査では、平仮名・片仮名・漢字の使い分けについてのルールを、どこでどのように習ったかについての質問に対して、あまり明快な答えが得られなかった。これは、日本語母語話者と日本語学習者に、アンケートと面接で聞く、という今回の方法の限界によるものと思われる。国語教育の側、日本語教育の側のシラバスにはあるはずなので、これを調査して、今回の研究を補いたい。

さらに将来的には、片仮名表記に限ることなく、漢字一仮名の揺れ、送り仮名の揺れ、使う漢字の揺れなど、非母語話者に対する日本語教育の中の標準表記について、広く考えていきたいと思う。

参考文献

- 岩淵悦太郎（1970）『現代日本語』筑摩書房
- 河原崎幹夫（1989）「片仮名の指導法」加藤彰彦編『講座日本語と日本語教育 9 日本語の文字・表記（下）』明治書院
- 小泉保（1978）『日本語の正書法』大修館書店
- 国語審議会報告（1956）「正書法について」
- 菅生早千江（2002）「初級教科書におけるカタカナ表記に関する一考察—5 冊の日本語初級教科書を比較して」『AJALT 日本語研究誌』創刊号、国際日本語普及協会
- 全国日本語教師養成講座連絡協議会（2006）「第 4 回全養教フォーラム 日本語教育とサブカルチャーの接点を探る」全国日本語教師養成講座連絡協議会
- 武部良明（1979）『日本語の表記』角川書店
- 武部良明（1980）「日本語教育における片仮名の問題」『日本語教育』42 号、日本語教育学会
- 玉村文郎（1982）「仮名とローマ字」国立国語研究所『日本語と日本語教育（文字・表現編）』大蔵省印刷局
- 中山恵利子（1998）「非外来語の片仮名表記」『日本語教育』96 号、日本語教育学会
- 成田徹男・榊原浩之（2004）「現代日本語の表記体系と表記戦略—カタカナの使い方の変化—」『人間文化研究』2、名古屋市立大学
- 則松智子、堀尾香代子（2006）「若者雑誌における常用漢字のカタカナ表記化——意味分析の観点から」『北九州市立大学文学部紀要』
- 堀江紫野（2001）「カタカナ表記の研究——非外来語系を中心に」『国文目白』
- 堀尾香代子、則松智子（2005）「若者雑誌におけるカタカナ表記とその慣用化をめぐって」『九州市立大学文学部紀要』

参考資料

- 内閣告示（1991）「外来語の表記」、文化庁（2001）『公用文の書き表し方の基準（資料集）』増補二版（第一法規）
- 共同通信社（2008）『記者ハンドブック』第 11 版（共同通信社）

アンケート調査出典

- 青山剛昌（1994）『名探偵コナン①』小学館
- 井上雄彦（1991）『SLAM DUNK—スラムダンク [1]』集英社
- 尾田栄一郎（1997）『ONE PIECE [1]』集英社
- 神尾葉子（1992）『花より男子①』集英社
- 岸本斉史（2000）『NARUTO - ナルト 1』集英社
- さくらももこ（1987）『ちびまる子ちゃん [1]』集英社
- 鳥山明（1985）『DRAGON BALL（ドラゴンボール）[1]』集英社
- 藤子・F・不二雄（1974）『ドラえもん [1]』小学館
- 矢沢あい（2000）『NANA—ナナー①』集英社